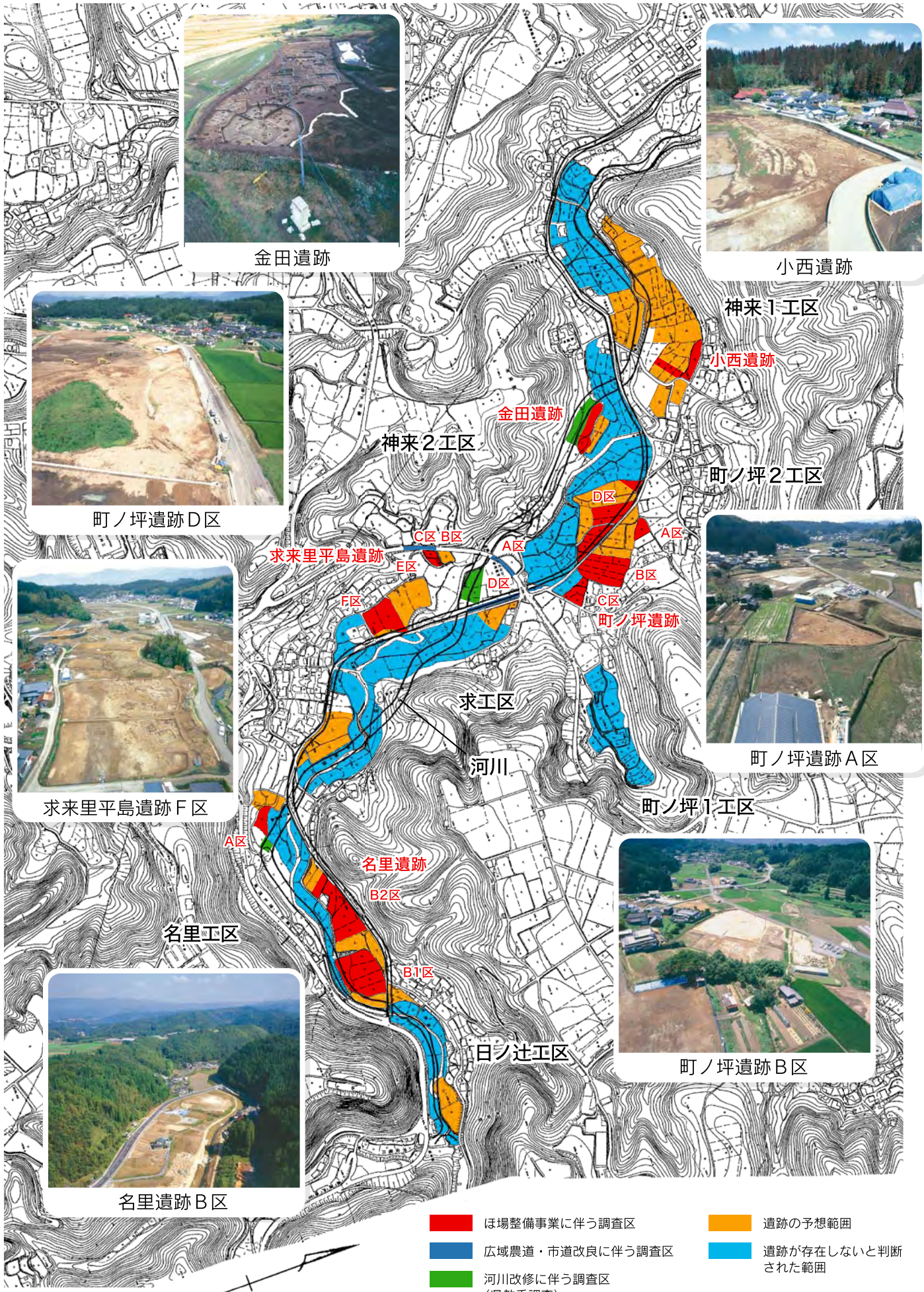


# 求来里の遺跡

— 県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果 —



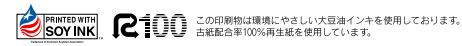
2010

日田市教育委員会

## 求来里の遺跡

— 県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果 —

編集：日田市教育庁文化財保護課  
 発行：日田市教育委員会  
 印刷：日田時報紙器印刷(株)  
 発行日：2010年3月18日





# 求来里川流域のほ場整備工事と埋蔵文化財の発掘調査

日田市教育委員会では、平成14年度より開始された求来里地区のほ場整備工事に先立ち、やむなく失われる埋蔵文化財を記録として後世へと残すために、小西・金田・町ノ坪・求来里平島・名里の5ヶ所の遺跡で合わせて約25,000㎡に及ぶ範囲の発掘調査を行いました。

その結果、旧石器時代～近世に至る遺構や遺物が数多く見つかリ、連綿と続く求来里の先人の暮らしぶりが、少しずつですが明らかになってきました。その流れを辿ると、旧石器時代から縄文時代にかけて、求来里川の流域を生活域としていた人々は、弥生時代になると本格的に集落を作り始め、古墳時代には市内でいち早くカマドを用いるようになります。その後、靱編郷(ゆぎあみごう)に組み込まれた古代を経て、中世には外国との交易でもたらされた陶磁器が出土するなど、求来里の人々の交流の広さを知ることができました。そして近世には現在の集落の原形がほぼ出来上がったと思われます。

以下各時代ごとに、もう少し詳しく説明していきます。

## 旧石器時代

～約13,000年前～

## 縄文時代

～約13,000年前～約2,500年前～

求来里において人の生活の痕跡は旧石器時代からみられ、町ノ坪遺跡では三稜尖頭器(さんりょうせんとうぎ)や剥片、小西遺跡ではナイフ形石器が出土しています。

縄文時代には、すべての遺跡で土器や石器が出土しています。中でも名里遺跡では早期から晩期の縄文時代のほとんどの時期の遺物が見つかっており、人々が川の流域を生活域として利用していたことを窺わせます。また、市内では2例目となる、まつりの道具と考えられている石鏝に似た形のトトロ石器が出土しています。



名里遺跡の縄文土器 (左：轟B式土器 右：曾畑(そばた)式土器)

## 弥生時代

～前4,5世紀(約2,500年前)～3世紀～

中期中頃以降、金田遺跡で集落が作られるようになります。後期に入ると、小西遺跡や町ノ坪遺跡でも集落が確認されるようになり、古墳時代前期初頭頃まで続きます。

この時代の集落は、求来里川下流を中心にしており、上流にある求来里平島遺跡、名里遺跡ではほとんど確認されていません。

また金田遺跡では集落の中に作られた子供用の甕棺墓が見つかっています。



小西遺跡の弥生土器



金田遺跡の竪穴住居跡

## 古墳時代

～3世紀～7世紀～

前期には金田遺跡で住居が数軒確認されている程度ですが、中期中頃以降には金田遺跡に加えて町ノ坪遺跡などに新しい調理施設であるカマド、それに伴う調理具である甑(こしぎ)や須恵器、朝鮮半島系の品物が伝わります。このカマドを持つ住居は現在のところ、市内では最も古いもので、当時求来里が先進的な地域であったことが窺えます。そして、これに合わせるかのように、町ノ坪遺跡や金田遺跡で集落の規模が大きくなります。後期になると、町ノ坪遺跡に加え、求来里平島遺跡、名里遺跡と集落は上流域へと広がっていきますが、この時代の終わり頃には住居の数は少なくなり、集落の規模は縮小していくようです。



金田遺跡の朝鮮半島系土器



金田遺跡・町ノ坪遺跡の初期須恵器



町ノ坪遺跡の竪穴住居跡とカマド

## 古代

～奈良時代：710年～  
～平安時代：794年～

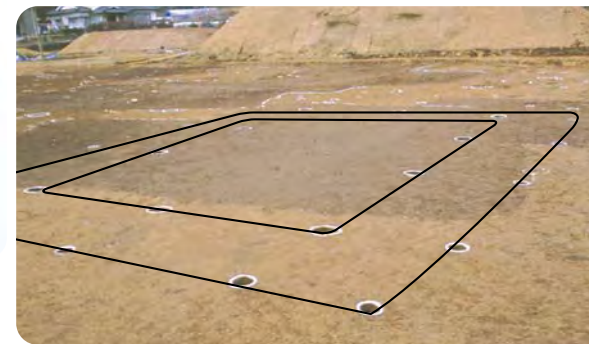
## 中世

～鎌倉時代：1192年～  
～室町時代：1338年～

奈良時代の律令制の下、求来里は靱編郷に属していたと考えられていますが、この時代の遺構は金田遺跡、町ノ坪遺跡でわずかに確認されている程度で、あまり多くありません。

中世になると、求来里平島遺跡では、13世紀前半頃の青磁碗が出土した小土坑や四方に庇(ひさし)の付いた立派な建物の跡が見つかっています。名里遺跡では求来里川の傍に墓が作られ、人骨とともに土師器の皿などの副葬品が見つかりました。また、このほかにも12世紀頃の青磁皿や16世紀の青花(染付)などが出土しました。

これら青磁や青花は中国から輸入された品物であり、当時の人々が海外との交流を行っていたことがわかります。



求来里平島遺跡の建物



名里遺跡の墓

## 近世

～江戸時代：1603年～

求来里という地名がいつ頃に付けられたか、はっきりわかりませんが、江戸時代の初め頃には、すでに求来里村と呼ばれていたようです。

町ノ坪遺跡では屋敷を囲んでいたと考えられる溝から多くの陶磁器類が出土しています。また、金田遺跡で水路と考えられる溝などが確認されています。



町ノ坪遺跡の溝

求来里川流域(神来町・求町)の空中写真と調査遺跡